

大阪大学蛋白質研究所「共同利用・共同研究」委員会
蛋白質立体構造データベース専門部会
議事要旨

日 時： 平成 29 年 3 月 15 日（水）14 時～15 時 45 分
場 所： 大阪大学蛋白質研究所 本館 2 階 大会議室
出席者： 中村春木（大阪大学蛋白質研究所）、栗栖源嗣（大阪大学蛋白質研究所）、
藤原敏道（大阪大学蛋白質研究所）、井上 豪（大阪大学大学院工学研究科）、
神田大輔（九州大学生体防御医学研究所）、
山本雅貴（理化学研究所放射光科学総合研究センター）、
由良 敬（お茶の水女子大学大学院基幹研究院）
欠席者： 千田俊哉（高エネルギー加速研究機構物質構造科学研究所）

議事に先立ち、中村委員長から、(資料-0)に基づき、前回議事要旨の確認依頼の後、(資料-1)、
(資料-2)に基づき、本部会の位置づけ、所掌等について説明があった。

【協議・承認事項】

議事 1. 蛋白質立体構造データベースの運営状況について

中村部会長から、(資料-3)及び(添付資料-3-1～3-8)に基づき、平成 28 年度の蛋白質立体
構造データベースの運営状況について報告があった。

- 平成 26 年度より JST による第 2 期データベース統合化推進プログラムの支援を受け、「蛋白質構造データバンクの高度化と統合的運用」として 3 年間のプロジェクトを行ってきた。
- 今年度は、JST からの受託研究費総額 65,000 千円に加え、人件費については、共同利用・共同研究拠点費用からも部局負担分として支出し運営を行った。
- PDB データ登録・品質管理の現状について説明があった。
- PDBj の国際化運営と高度化に関して、以下の報告と説明があった。
 - ・「NII Shonan meeting on Web-based Molecular Graphics (2016.9.5 - 8 神奈川県湘南村にて開催)」について報告があった。
 - ・「第 13 回 wwPDB 国際蛋白質構造データバンク諮問委員会 (2016.10.7 米国 Wisconsin-Madison 大学 BMRB で開催) について報告があった。なお、次回は、2017.10.13 に米国ラトガース大学において開催されるが、蛋白研以外の学内委員と学外委員から 2 名参加いただきたいので、追って調整して決定することとなった。
 - ・wwPDB の登録・アノテーション・検証の新規パイプライン One Dep について説明があった。
- BMRB データベースの構築と高度化に関して以下の報告があった。
 - ・「NMR 実験データ記述法に関する NMR-VTF と NEF の合同ワークショップ (2016.8.26 - 27 蛋白研にて開催)」について報告があり、特にこのワークショップでは、全員が 5 つのセッションに参加し、NEF と NMR-STAR の双方の現状が紹介され、その具体的な問題が話し合われた旨の報告があった。
- 研究開発チームの構成について説明があった。

○ニュースレターの発刊並びに日本各地で以下のシンポジウムや講習会等を開催し、蛋白質構造をわかり易く説明する等の活動を行った旨の報告があった。

(主なもの)

- ・ 2016. 5. 1 第 57 回大阪大学いちよう祭・蛋白研イベント (蛋白研)
- ・ 2016. 6. 7 第 16 回日本蛋白質科学会年会 PDBj&JAICI ランチョンセミナー (福岡国際会議場)
- ・ 2016. 7.23 All-in-one 合同講習会 2016-バイオビッグデータ入門 (大阪梅田グランフロント大阪)
- ・ 2016.10. 1 第 5 回生命医薬情報学連合大会・PDBj ランチョンセミナー (東京国際交流会館)
- ・ 2016.11.3-6 サイエンスアゴラ 2016 (東京：日本科学未来館)
- ・ 2016.11.17 PDBj ランチョンセミナー (茨城県立県民文化センター)
- ・ 2016.11.25 第 54 回日本生物物理学会年会ランチョンセミナー (つくば国際会議場)
- ・ 2016.11.30-12.2 第 39 回日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜)

○生命科学データベース間の協力に関する覚書について説明があった。

○第 2 期データベース統合化推進プログラムの終了報告書について説明があった。

議題 2. 平成 29 年度蛋白質立体構造データベース専門部会の構成について

中村部会長から、(資料・4) に基づき、本事業の来年度以降の継続プログラムは、栗栖委員を代表として申請していることから、平成 29 年 4 月 1 日からは、部会長を栗栖教授に変更したい旨の説明があり承認された。

引き続き、委員の構成について、現行では、学外からの委員は 4 名で民間企業からの委員が入っていないことから、平成 29 年 4 月 1 日付けで専門部会内規を改正し、民間企業からの委員を含めて学外委員を 5 名とし、候補者として帝人ファーマ株式会社・上席研究員の上村みどり氏を推薦したい旨説明があり、承認された。

議題 3. 平成 29 年度蛋白質立体構造データベースの運営計画について

中村部会長から、(資料・5) 及び(添付資料・5-1) に基づき、平成 29 年度の蛋白質立体構造データベースの運営計画について説明があった。

○2017 年度から JST-NBDC による第 3 期のデータベース統合化推進プログラムの支援を受けて「蛋白質構造データバンクのデータ検証高度化と統合化」として 5 年間のプロジェクトを実施する予定である旨の説明があった。

○PDB および BMRB データベース登録・品質管理について説明があった。

○PDBj の国際的運営と高度化について説明があった。

○創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業との連携について説明があった。

○ニュースレターの発刊は、2017.12 頃を予定していること、また、講習会等の開催予定について説明があった。

○データベースの統合化について、PDBj は DDBJ および DBCLS と国内におけるアライアンス

活動を継続して行っており、2017.4には、合同ポータルの開設を計画中である旨説明があった。

配布資料：

- (資料-0) 平成 27 年度 蛋白質立体構造データベース専門部会(H28.2.5) 議事要旨
- (資料-1) 蛋白質研究所「共同利用・共同研究」委員会 内規
// 専門部会内規（現行）
- (資料-2) 蛋白質立体構造データベース専門部会 委員名簿（現行）
- (資料-3) 蛋白質立体構造データベースの運営状況について
- (資料-4) 平成 29 年度からの蛋白質立体構造データベース専門部会新委員（案）名簿および
蛋白質研究所「共同利用・共同研究」委員会専門部会内規（案）
- (資料-5) 平成 29 年度蛋白質構造データベースの運営計画について